

1 3. ラバーダム防湿

<到達目標>

- ・ 歯科医師の指示に従える
- ・ ステップごとに報告できる
- ・ 患者にこれから行うこと（ラバーダム防湿）の説明ができる
- ・ ラバーダム防湿に必要な器材の準備ができる
- ・ 適切な歯面清掃と口腔内診査ができる
- ・ ラバーダムシートに適切な位置、大きさの穴を開けることができる
- ・ 患歯に適合するクランプを選べる
- ・ クランプの落下、誤嚥防止用の措置を取れる
- ・ クランプをクランプ鉗子に正しくセットできる
- ・ クランプを患歯に適切にセットできる
- ・ ラバーダムシートをラバーダムフレームに適切に展開できる
- ・ 手術野の消毒が正しくできる
- ・ 補助クランプでラバーダムシートの固定ができる
- ・ ラバーダムを適切に撤去できる
- ・ 後片付けができる

<設定場面>

50 歳女性、右下 6 番の根管治療で通院している。今回は 2 回目の治療で、ラバーダム防湿を行ったうえで根管治療を進めていく予定である。

<治療手順>

1. 歯口清掃 必要器材：歯面清掃用セット（スケーラー、デンタルフロスなど）
歯科医師：衛生士に歯口清掃を指示する。

助手：必要器材を用意する。

衛生士：スケーラー、デンタルフロスで隣接面を含め歯面を清掃する。
(フロスはラバーシートが隣接面を通過するかどうかの確認をする意味もある。)

2. ラバーダムシートの穿孔 必要器材：ラバーダムシート、ラバーダムパンチ
ワセリン
歯科医師：衛生士に患歯のラバーダム防湿を指示する。

衛生士：ラバーシートの上縁両端を上唇部で軽く押さえ、患者に開口させた状態でシートの上から患歯を押さえ、穿孔部をマークする。

患歯にあった大きさの穴をパンチのターレットから選び、マークした部分に穿孔する。

穿孔部裏面にワセリンを塗る。

3. クランプの選択と試適 必要器材：クランプ（有翼型、無翼型）、クランプ鉗子、デンタルフロス

衛生士：患歯に適合するクランプを選ぶ。

落下防止のためデンタルフロスを **15cm** ほどスプリング部に縛る。

クランプ鉗子にクランプをセットし、患歯に運ぶ。
（このとき落下による誤嚥を防ぐために患側に顔を傾けてもらう）

視野を確保しにくい方からクランプを合わせてみる。

ビークは歯頸部に対して4点で接触していることを確認する。

適合が悪い場合はアブレイシブポイントなどで調節する。

4. シートの患歯への装着

衛生士：A.有翼型の場合

シートの穿孔部にクランプの翼をかける。

鉗子でクランプを固定し、シートは左手で展開する。

クランプを患歯に適合させ、シートを展開し、フレームにかける。

ストッパーでウイングにかかったラバーシートをはずし、ラバーシートで歯頸部を括約する。

B.無翼型の場合

クランプのスプリング部分にシートの穿孔部をかぶせ、鉗子でクランプ

を把持し、シートは左手で握り、患歯に運ぶ。

クランプを歯頸部に適合させ、ラバーシートをクランプの下側まで滑らせて歯頸部を括約する。

5. フレームの装着 必要器材：ラバーダムフレーム、ヨードチンキ綿球

衛生士：ラバーダムフレームにシートを展開する。

患者にヨードアレルギーがないか確認する。

アレルギーがなければ手術野をヨードチンキで消毒する

6. 補助クランプによるシートの固定

衛生士：隣接歯あるいは反対側の歯に補助クランプの装着を行って、ラバーダムシートの固定を行う

7. (治療終了後) ラバーダムの撤去 必要器材：ヨードグリセリン

歯科医師：衛生士にラバーダムの撤去と患歯周辺のヨードグリセリン消毒を指示する。

衛生士：フレームを左手で支え、右手のクランプ鉗子でフレーム、シートを同時に除去する。

ロール綿花を頬舌側（唇舌側）に入れ、簡易防湿の下でヨードグリセリンを貼薬する。

助手：患者に手鏡とティッシュペーパーを渡し、口元を拭ってもらう。
器具の後片付けをする。

1 3. ラバーダム防湿

必要器材

- ① 歯面清掃用セット (スケーラー、デンタルフロスなど) ② ラバーダムシート
- ③ ラバーダムパンチ ④ ワセリン ⑤ クランプ(有翼型、無翼型) ⑥ クランプ鉗子
- ⑦ デンタルフロス ⑧ ラバーダムフレーム ⑨ ヨードチンキ綿球
- ⑩ ヨードグリセリン